

# 平成28年度 山形県山岳連盟登山部研修会（兼）冬季指導員研修会実施報告

実施日 平成29年2月25日（土）～26日（日）

場 所 大江町 山里交流館「やまさあーべ」

参加者 26名（指導員19名・一般会員7名）

概 要

【一日目】

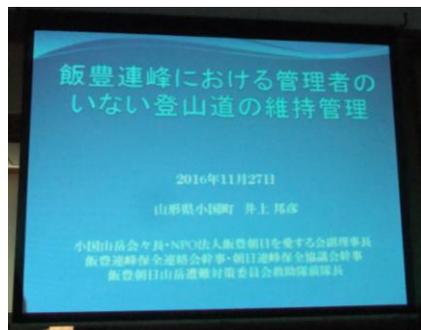
12:30 受付

13:00 から開会式を行い、山形県山岳連盟高橋副会長から挨拶をいただき、続いて地元大江山岳会木村会長より歓迎のあいさつを頂いた。その後座学研修として、井上副理事長より飯豊連峰に於ける保全事業の経緯と成果についてパワーポイントを使つての報告を頂き、



井上副理事長

かつての草原が幕営地であつたことから裸地化し、やがて登山道が洗掘され浸食が深刻化してきた状況や、過酷な条件下で建てられた山小屋についても現在のような簡易浄化方式でもなく悲惨なトイレ事情であつた時代を回想させられるもので、安全登山に関する指導だけでなく、登山行動に於けるモラルや留意点について指導の必要性についても考える機会となった。その後近年の低体温症への対処方法について紹介いただき、



これまでの常識が間違っている場合も少なくないことを再認識することができた。

医学も日進月歩で新たな対処方法や考え方に変わってきており、より実践に即した指導を念頭に指導者の資質向上を図っていく必要を感じた。



15:00 から指導員総会を行い登山部所管の事業担当者から報告をいただきました。

指導員会からは、春、秋に実施した研修会、日本山岳協会及び山形県山岳連盟の昨今の動向について事業報告があり、平成29年4月よりAC（アルパインクライミング）指導員とSC（スポーツクライミング）指導員の登録管理が分かれることから、取得資格について更新にあたっては十分留意して欲しいこと。指導員養成講習会の開催について、山形県では主



任検定員がおらず検定会が出来ないことから、指導員の育成に向け上級指導員の方には主任検定員養成講習会の受講検討をお願いしたい旨の報告があり、指導員会から受講費用等の助成について出席者から了承いただきました。また、雪崩危険度判定についての資料説明もありました。

遭難対策担当からは、低体温症の留意点、日本山岳協会遭難対策委員会研修会での内容から山のグレーディングについて体力度（縦軸）・難易度（横軸）を5段階に分け、新潟・山梨・信州・静岡の4県で統一したものが策定され、H28年7月1日から長野県登山安全条例が制定され登山計画書の提出が義務化されたことの報告があった。又、鳥海山では入山管理システムとして、スマホに「鳥海山アプリ」をインストールすることで、入山届や下山届が容易に管理され、



阿曾副会長（遭難対策）

登山口に設置した BLE センサーがアプリを起動し下山届がない場合のメール確認や家族へのメール等をサポートしてくれるキャプテンシステムの紹介がありました。

競技部からはこれまで競技経過の報告と山形市のボルダリング施設のデッドポイントがやめたため、新たに千歳駅近くにボルダリングハウス 358 が設置されたこと、国体に向けて H29 年度は SC 指導員及びルートセッター資格者の育成に取り組んでいきたいとの報告がありました。



齋藤競技部長



池田事務局長

県岳連事務局からは、H29 年度に山形百名山のグレーディングについて県から策定要請があるので、今後県岳連総会で審議されるが、引き受けた際は地元山岳会への協力をお願いしたいとの説明がありました。

稲泉 100 名山選考委員からは進捗状況として、ようやく作業が終わったので3月中に県から公表される予定とのことでした。



稲泉顧問

渡部指導員（小国山岳会）からはファーストエイド講習会でお世話になった、国際山岳医の大城和恵先生の講演会実施について提案があり、一般登山者も含め知識や技術の向上を図る上から3月18日に予定している県岳連総会へ議題提起することとしました。

18:00 からの情報交換会では、行事が重なる中出席頂いた渡邊兵吾大江町長から、入山者が多くなってきている古寺鉱泉の整備構想や時代と共に考え方も違って来ているが、森に親しむ「育林休暇」というのがあってもいいのではないか、山に登るとお金は役に立たない、お互い助け合う気持ちが大切である、



渡部指導員



渡邊兵吾大江町長



情報交換



佐々木館長

吉村知事もこの学校を卒業したことや、ただ素通りするのではなく山に近付くために、仲間を増やしてひとつの形にしてそこから発信して欲しい。「全国山の日」をやる自治体が少ないと聞かすが、できればこの会でやるというのであれば大江町も協力を惜しまない、やれないというのではなく、やろうと思ったらやれると思うので頑張ってもらいたいとの激励の言葉を頂きました。



朝定食

【二日目】

大江山岳会の皆さんが準備してくれた朝食をいただき、8:30から体育館で吉田副委員長のデモにより従来と現在のロープワークの違いについて研修した、初めにラペル（懸垂下降）方法について、従来ハーネスからとった、下降器具（エイト環等）の上側メインロープにルージュック等でフリクションヒッチをとり自己確保としていたが、今は下降器具の下側に自己確保をとることで、下降途中にテンション（ロープに加重がかかる状態）がかかった場合より安全に停止することができその後の動作も円滑に行えることを確認し、スリングを使用しての下降器具の位置調整やフリクションヒッチの位置、より効果的な結び方、作業時の固定方法等の検証がされた。



吉田副委員長

アンカー（流動分散）の取り方では従来二か所以上のアンカーを支点とする場合、滑落時の加重が等しくアンカーへかかるように流動分散方式を推奨してきたが、実際には滑落時の瞬間的な衝撃に対して従来の流動分散方式では各支点への加重は等しくはならないとのことや、支点が破損した場合若しくはロープが抜けた場合滑落する距離が長くなることなどから、あらかじめ滑落方向を確認して固定した方が効果的であることが検証された。



倍力システム（吊り上げシステム）の方法については、はじめに使用する器具について使い方を確認した、昨今さまざまな器具が販売されており誤った方法で指導して事故につながる場合もあるのでそれぞれのメリット・デメリットがあることから、扱いやすさ、安全性、確実性等について検証後、いかに引き上げ時に負担を軽減するか倍力システム



研修状況

(1/3 システム等) の構築方法とメインロープの結末部通過時のシステム替えの方法について検証した。セカンドの確保 (マルチピッチ) については支点の取り方と確保動作について、トップロープ滑落時のレスキューについてはデバイスの掛け替えによるつり下ろし手順、SAB (スタンディングアックスビレイ) の変更点と手順について確認をおこない 12:30 終了。



支点確保方法



SAB手順確認 (高取副部長)



研修状況

26名の参加者により2日間の研修を終えましたが、今回会場となった「やまさあーべ」は元七軒西小学校を再利用した施設であり、平成27年4月29日に宿泊研修施設に改装しリニューアルオープンしたばかりで床暖房設備や調理施設、研修機材も整っており、充実した研修ができました。又、地元大江山岳会の全面的なご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。

今後も指導員の資質向上と安全登山等に関する知識や技術の習得、情報交換を通じた相互研修を念頭に事業計画したいと思います。 山形県山岳連盟登山部長 (兼) 指導委員長 菅野 享一

